

# 42 破天荒

平成三十一年度版

創刊  
十七号

## 四十二回生 平成最後の学年通信です

二年生になって、早や一か月になろうとしています。少しだけ成長した姿も感じつつ、生徒達は、二年生になって少し上げられたハードルに、越える努力をするべきか、越えられない事実を作って、頑張れることを躊躇するべきかを迷っている様子も窺えます。まずは、小テストの結果に注目しましょう。一年生より、少しだけ頑張り続けられれば、きちんと成果が得られますが、コツコツと積み重ねるには、大きな決意が必要なのが分かってから、迷いがあるのでしよう。とはいえ、今年のこの一か月は特別です。何故ならば、時代が変わります。そんな場面に立ち会うことになり、元号が平成から令和になっても、やることは同じかもしれないかもしれませんが、変化があれば、感じ方が変わります。動機付けをすることができず、たかがを大切に、自分磨きをしてほしい。二年生は、中心学年であることや、学校の中核としての活躍を求められます。だからこそ、この機会を積極的な行動の起爆剤にしてほしいと思います。今年のゴールデンウィークは十連休です。「まだ始まったばかり」「部活動が大変」などを理由にせず、規則正しい生活、自らが教師となつて、自分に問う学習法を試してもらいたいものです。

## そのときなにを？

時代が、「昭和」から「平成」に変わったときは、大学四年生を終えようとするときでした。昭和天皇の崩御報道に始まり、テレビをはじめ、メディアは自制報道一色で、テレビ画面は白黒の世界で、音声は沈痛な音楽が流れ続けていたことを覚えています。そんな中、故小淵恵三元首相(当時は官房長官だったと思いますが)が、「平成」と書かれた額縁を掲げられた場面は有名ですが、六十数年続いた後の平成と言う響きが、何となくくすくすしたことを覚えています。その時代の変化とともに、私自身も学生を終え、教職に携わることになった大きな節目の一年でした。振り返れば、ということになります。当時はそんなことをゆつくり感じることもなく、これから始まる社会人としての生活に、様々な思いをこめていたのだらうなあと、「平成」から「令和」になる今を、眺めている気がします。生徒の皆さん、保護者の皆さんも次のこのような機会に自分を振り返ることになるかと思えます。その時に、何かを感じる事ができるか。そんな「いま」を過ごしてもらおう、これから始まるゴールデンウィークに備えてください。

### 野外活動(ペーロン競漕) 4月12日(金)



新学年となり一週間。4月12日(金)に、42回生は、ペーロン海館に集合し、ペーロン体験をしました。経験者、未経験者ともに、力だけでなく、皆の気持ちをどうつなげるか、声を一つに合わせながら、一日野外活動を楽しみ、新クラスでのアイスブレイキング・親交を深める機会にしてくれました。左の写真は、決勝戦のゴールシーンです。決勝に残ることができなかったクラスも、応援がいのあるレースで締めくくられました。

結果は・・・

1 位	5 組紅班	4 分 1 8 秒 1 7
2 位	4 組白班	4 分 2 0 秒 2 1
3 位	2 組白班	4 分 2 1 秒 5 7
敢闘賞	5 組白班	4 分 3 5 秒 5 3

次は相高祭です。



不安の中乗船



權がなかなか・・・



息がようやく合いはじめ

## 生徒の声

実際に艇を漕ぐ前は、上位に入りたいから頑張ろうと思っていました。ですが、いざ艇に乗ると、タイミングを合わせる事の難しさと楽しさを知りました。新学年として、様々な課題と楽しみが見えた行事になりました。

三組女子

全員で声を出し、息を合わせてを目標に頑張ったが、まだまだ他のクラスより足りない部分が多いと感じました。行事はまだあるので、この悔しい経験を次に生かさなければ意味がないので、頑張りたいです。

三組男子

「優勝しよう」と声を合わせて頑張りましたが、決勝戦にも上がれませんでした。でも、「一組らしさ」がどういうものなのかが分かったので、二か月後の相高祭では、その「一組らしさ」を存分に発揮したいと思えます。

一組女子

ペーロンは、ただ力任せに漕ぐのではなく、仲間のみんなと息を合わせることで、より速く進みます。このことから、クラスで一致団結し、力を一つにしていきたいです。息を合わせて、一致団結するには、声を出すことが大切だと分かりました。

一組男子

今回のペーロン競漕でクラスがまとまったと思った。新クラスになり、話したくない子とも話ができて、良かった。五組に勝つという目標が達成できなかったけれど、相高祭、体育大会では優勝を目指したいと思う。

四組女子

私達のクラスは、全体の動きを合わせるといふ目標で臨みました。ペーロン競漕は初めての経験でしたが、皆の息が合っていて感動しました。次の行事でもクラスが一致団結して取り組めるように、私は雰囲気を作りたいです。

四組男子

全員が無我夢中になったことが結果を得られたのだと思います。一人一人が我を忘れ、全員のためと思う気持ちが団結力につながったと思います。次の行事では、結果までの過程を大切に、様々な点から物事を考えます。

四組女子

ペーロン体験を通し、クラスの友達と仲を深めていくことができたと思う。また、自分から声を出し盛り上げていくこともできたと思う。次の行事では、よりクラスみんなと協力していき、良い結果を残していきたい。

二組男子

新クラス一発目のこの行事は、中を深めることが第一の目的だと思います。それに競漕ということもあり同時にクラスの団結力も試されました。団結力では少し欠ける部分がありましたが、クラスの絆は深まりました。

二組女子

今回のペーロン体験では、五組の良さが出たと思う。ペーロンは一人一人が頑張りと、団結しなければならぬスポーツです。そんな中で優勝できたので、これを自信に変えて、これからの行事も団結して頑張っていきたいです。

五組男子

予選、決勝ともに一位で、結果はもちろん、クラスで協力してやり切ったという達成感があり、とても嬉しかったです。僕は太鼓係だったので、漕いでくれる皆の為に、精一杯声を出しました。次の行事も皆の為に、頑張ります。

五組男子

野外活動を通して、さらに五組の絆が強まったと思います。皆で声を掛け合ったり、笑い合ったり、本番では真剣に取り組みました。終わった後も、白組の子が紅組に声を掛けたりして、クラスの絆の強さを実感しました。

五組男

四月九日に生徒会選挙の告示がされ、三名の生徒が、会長一名、副会長二名に立候補しました。熟考を重ねての立候補であったので、目標を掲げるなか、生徒全員の協力を強く訴えておりました。

四月十七日は、信任投票選挙となりましたが、三名とも信任を得ました。それ以上に評価できることは、当該の四十二回生の投票に無効票がなかったことです。勿論、一〇〇%の信任であったかどうかは分かりませんが、誰一人いい加減な気持ちで投票せずに、自分たちの学年の代表に、まずはしっかりと向き合い、強いエールを送ってくれました。

生徒会の皆さん。緊張らず、自然体の姿勢を持って、頑張ってくださいませ。



42回生生徒会立ち上がり			
会長	永田 夢海 (2-4)	副会長	大西 朗仁 (2-5)
書記	米田 乃優 (2-3)	副書記	山手 涼太郎 (2-3)
会計	加藤 優奈 (2-5)	学務委員	山手 涼太郎 (2-3)
HR委員	藤村 英 (2-3)	体育委員	山手 涼太郎 (2-3)
図書委員	廣田 佳南 (2-3)		
文化委員	池田 依南 (2-3)		
長計	津田 裕和 (2-3)		
副計	櫻田 多加 (2-2)		
委員	竹田 光希 (2-5)		
委員	横山 哲士 (2-3)		
委員	岩崎 はずき (2-3)		

### 五月の予定

- 一日(水) 令和元年の始まり
- 六日(月)まで十連休
- 八日(水) 生徒会役員認証式 キャンパスカウンセリング
- 九日(木) PTA総会 人権講演会 尿再検査
- 十四日(火) 一学期中間考査一週間前
- 二十一日(火) 一学期中間考査
- 二十四日(金)まで
- 二十四日(金) 通学路清掃
- 三十日(木) 歯科検診(二年一組)
- 三十一日(金) 生徒会挨拶運動

### 耳の痛い話

一学期始まって早々、届いた苦情です。

四月十二日(金)の野外活動で、ペーロン競漕にてクラスの仲間意識が高まった日の帰り道、自転車で行く途中の生徒が歩道一杯に広がって、他の通行者の通行の妨げになっている、声を掛けても反応がない、人としてどうなのか、学校では勉強以外に教えていないのか？ 辛辣な苦情電話に、私が現場まで呼び出され、懇々と苦情を受けました。ただただ、謝罪でした。こんなことも言われました。「インターネットが発達した時代で噂はあっという間に走りますよ」と。

また、別の日には、外からの苦情ではありませんが、学校の廊下でも同じように横に広がり、周囲の状況の配慮が見られない現場が、週末課題を提出する月曜早朝にはよく見られます。部活動後の下校でも、グラウンドを横切る方が近いということで、整備をした場所を平気で横切る姿も見られます。体育館のフロアでスリッパを履き替えたり、履き替えたスリッパの底を床につけたり・・・。

常識として思っていた話が、多くのバリアフリーとともに配慮すべき心が、時代が進むとともに、どこかに置き去られている気がする。私だけでしょうか。年齢が進んでいるのかもしれないですが、保護者の皆様も含めて一考したいものです。

### いざ令和へ